

授業科目(ナンバリング)	ホスピタリティ概論 (AA103)			担当教員	安部直樹・中島憲一郎・木村勝彦 橋本健夫・井上英也・山内美穂 神野周太郎・森尾真之・金澤由佳 ヴァーグヴェイトル・藤井俊輔・小田和人 藤原俊幸・田中啓太郎・藤木司		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>本学は、「人間尊重」を基本理念に、「ホスピタリティの探求、実現」を教育・研究の基礎とし、ホスピタリティを構成する能力を身につけ活用できることが、学位授与の方針となっている。本講座は、本学でのあらゆる学びの基本となるホスピタリティの意味を理解し、実践的に体現していくことができるようになることをねらいとする。</p>							④⑤⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ホスピタリティの具体的なあり方を自らの専攻分野に関連づけて説明することができる。				レポート	25%	
情報収集、分析力	ホスピタリティの基本的な精神とそのさまざまな表現について情報を収集し、分析することができる。				レポート	15%	
コミュニケーション力	ホスピタリティの精神を社会生活の中で実践し円滑な人間関係を築くために、周囲の人達と積極的なコミュニケーションを図ることができる。				授業中の発表や授業ノート	15%	
協働・課題解決力	与えられた課題を自らのものとして捉え、解決を試みるができる。				課題の解決策	15%	
多様性理解力	異分野を専攻する者で構成するグループ活動等において、多くの価値観を認め、協力できる。				授業中の発表や授業ノート	30%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業中の参加態度、発表など、授業での積極性、協調性、主体性、などを観察法で評価する。また、講義終了ごとに提出を求める「授業ノート」により理解度を確認する。加えて適宜課されるレポートの内容と併せて、総合的に評価する。授業、レポートにおける質問、コメントなどへのフィードバックは都度おこなう。</p>							
授業の概要							
<p>本授業は、テーマ、内容に応じて、理事長、学長、副学長をはじめとする本学教員および社会で活躍する本学の卒業生ならびに外部講師の講義により、本学の学びの核となる“ホスピタリティ”の多面的な理解を目指す。また、授業内容により全体、学部・学科混成、学科別にクラスを編成し、同学年の多くの学生と学び、討議し、実践する機会を提供する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：適宜指示する 指定図書：「本物の大人論」外山滋比古(著) 海竜社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専攻の異なる他学科の学生および留学生と積極的に交流することで、自分と異なることへの受容性を高め、幅広い視野を養うこと。 ・ 集団における自分の役割を認識し、自分自身のホスピタリティに基づく行動が全体に与えるプラスの影響について考える習慣を身につけること。 ・ 授業で学んだことを直ちに実践してみること。 							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	シラバスの説明、担当教員及び事務職員の紹介、班編成、班ごとの自己紹介、授業ノート(ポートフォリオによるレポート)の入力方法の説明などを実施する。	シラバスを読んでおく
2	長崎国際大学が育成する学士像(中島学長)	大学の役割を説明するとともに、学生一人一人が将来像を描けるように、長崎国際大学が育てる人物像をディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーを活用して具体的に述べる。さらに、安心して学修に励むことができるような体制を、教員や職員が一体となって構築していることを紹介し、主体的な学修への一歩を促す。	(予) ディプロマ・ポリシーを見ておく (復) 授業ノート提出
3	ホスピタリティの起源と文化(木村副学長)	世界史および日本史におけるホスピタリティの起源と変遷を理解し、現代社会の課題を明らかにする。	(予) ホスピタリティの意味を調べておく (復) 授業ノート提出
4	プレゼンテーションの重要性(外部講師)	限られた時間の中で、情報や主張を自分の言葉で聴衆に伝えることを目的とするプレゼンテーションの重要性について専門家から学ぶ。	(予) プレゼンテーションの意味を調べておく (復) 授業ノート提出
5	オープン・キャンパスプロジェクト	理事長講話(安部理事長)	(予) 九州文化学園のホームページを見ておく (復) 授業ノート提出
		グループワーク①	
6	オープン・キャンパスプロジェクト	生活とホスピタリティ(外部講師)	(予) オープン・キャンパスの体験を振り返っておく (復) プレゼンテーションを完成させる
		グループワーク②	
7		グループワーク③発表	(予) プレゼンテーションの準備 (復) 授業ノート提出
8	事務職員のキャリアとホスピタリティ	本学の事務職員の仕事について理解し、職員の経歴をもとに、仕事とホスピタリティの関係を考察する。	(予) キャリアの意味を調べておく (復) 授業ノート提出
9	国際化とホスピタリティ	グローバル化する社会の多様な文化の中におけるコミュニケーションのあり方を考察する。	(予) 他言語を学ぶことの意義を考えておく (復) 授業ノート提出
10	ホスピタリティ・ルーブリックの理解と自己認識	ホスピタリティ・ルーブリックに基づき、「ホスピタリティを構成する5つの能力」について理解し、自己の現状認識をした上で行動目標を設定する。	(予) ポートフォリオにあるホスピタリティ・ルーブリックを調べておく (復) 行動目標の完成
11		各専攻分野に求められるホスピタリティ	
12		学科別の課題とホスピタリティ①	
13		学科別の課題とホスピタリティ②	
14		学科別の課題とホスピタリティ③	
15		学科別のまとめ及びレポート提出	

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11	国際観光学科に求められるホスピタリティ	国際観光学科での学びにおけるホスピタリティの重要性を理解し、特に本学科の学生に求められる多様性理解力について考察する。	(予) 観光の必要性を考えたておく。 (復) 授業ノート提出
12	長崎国際大学での学びと社会 (グローバルツーリズム)	社会で活躍する国際観光学科の卒業生を招き、大学の学びと仕事の結びつきを共に考える。	(予) 大学生活におけるホスピタリティの意義をまとめておく。 (復) 授業ノート提出
13	長崎国際大学での学びと社会 (スポーツツーリズム)	社会で活躍する国際観光学科の卒業生を招き、大学の学びと仕事の結びつきを共に考える。	(予) 大学生活におけるホスピタリティの意義をまとめておく。 (復) 授業ノート提出
14	長崎国際大学での学びと社会 (観光マネジメント)	社会で活躍する国際観光学科の卒業生を招き、大学の学びと仕事の結びつきを共に考える。	(予) 大学生活におけるホスピタリティの意義をまとめておく。 (復) 授業ノート提出
15	「ホスピタリティ概論」を受講して	「ホスピタリティ概論」での成長を診断するとともに、授業の改善点を検討し、まとめる。	(予) 授業ノートをまとめておく。 (復) 授業の改善点の完成

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11	社会福祉学科のホスピタリティ	社会福祉の歴史を概観しながら、対人援助及び地域援助に求められる多様性の尊重等の諸原理とホスピタリティとの関係性について学ぶ。(学部長・学科長)	(予) 学部長・学科長に質問したいことを列挙する。 (復) 授業ノート提出。
12	福祉の仕事におけるホスピタリティ①	現場で活躍するソーシャルワーカーの実践事例を踏まえたホスピタリティの考察から、その必要性について理解を深める。(ソーシャルワーカー)	(予) SWに質問したいことを列挙する。 (復) 授業ノート提出。
13	福祉の仕事におけるホスピタリティ②	社会福祉学科卒業生が本学と現場で学んだホスピタリティや専門知識等を社会福祉実践にどう結び付けているかを知り、学修する意味を理解する。(卒業生)	(予) 卒業生に質問したいことを列挙する。 (復) 授業ノート提出。
14	「ホスピタリティ概論」全体の振り返り	これまで学修してきた授業を振り返り、ソーシャルワーカーがホスピタリティをどう受けとめ、研鑽すべきかをグループで検討する。	(予) これまでの授業ノートや配布物を整理する。 (復) 授業ノート提出。
15	「ホスピタリティ」論述	ホスピタリティの意味についてどのように理解し、今後どのように実践的に体現していきたいかを論述する。	(予) 第15回授業内容に対する自分自身の考えをまとめる。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11	健康栄養学科に求められるホスピタリティ	「食と医学を基本とした栄養学」を修得し、広く社会に貢献していくために、健康栄養学科での学びにおけるホスピタリティの重要性を理解する。	これまでの授業内容をまとめておく。
12	ホスピタリティと仕事 1	臨床栄養・・・医療分野 ①栄養ケア・マネジメントの実践を通して ②傷病者の栄養計画から具体的なプラン展開を通して ③チーム医療に重要なコミュニケーション力を通して	医師、看護師、薬剤師、管理栄養士のチーム医療について調べておく。
13	ホスピタリティと仕事 2	福祉施設・・・高齢福祉施設・保育所 ①栄養管理方法の理解を通して ②栄養問題について実践的な提案を通して ③介護保険制度や保育所給食のガイドラインの理解を通して	福祉施設の現状について調べておく。
14	ホスピタリティと仕事 3	委託給食施設・・・委託会社、派遣会社 ①受託先・派遣先との契約を通して ②多様な業務を通して ③受託先、委託先とのチームワークを通して	委託給食施設について調べておく。
15	「ホスピタリティ概論」を受講して	「ホスピタリティ概論」での成長を診断するとともに、授業の改善点を検討し、まとめる。	(予) 授業ノートをまとめておく。 (復) 授業の改善点の完成

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11	薬学科に求められる ホスピタリティ	薬学部学生が卒業時に必要とされる資質、すなわち薬剤師としての基本的資質が10項目挙げられている。それらの資質の修得は、患者・生活者本位の視点を醸成する基盤として位置付けられる。本講義は、患者に寄り添う薬剤師としてのホスピタリティについて考えることを狙いとする。	薬剤師としての基本的資質である10項目の内容について調べておく。
12	仕事とホスピタリティ	仕事に必要なホスピタリティを本学OB（病院・薬局、行政等）、外部講師から講演・談話形式で学ぶ	病院・薬局での薬剤師の仕事について調べておく。
13	ホスピタリティのための 心理学 1	患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ能力を身につける。 1. 自身の行動と他者の行動が、どのような感情・情動で決定するのか体験的に理解する。 2. 意思、情報の伝達に必要なコミュニケーションのあり方について学習する。 3. 対人関係に影響を及ぼす心理的要因についてさまざまな場面を疑似体験することで体験的に理解する。 4. 病歴や処方箋から患者の心理状態について推測する力を養いしなう。 5. 自分や他者の態度によって影響を受ける自身の心理や他者心理について理解する。(態度)	チーム医療について調べておく。
14	ホスピタリティのための 心理学 2	6. 他者にとってバッドニュースを適切な手段により伝えることができる。 7. 自分の考えや感情を相手に不快な思いをさせずに伝えることができる。(技能・態度) 8. 他者の意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。(知識・技能・態度) 9. 患者や家族、周囲の人々の心身に及ぼす病気やケアの影響についての予測について適切に説明できる。 10. 患者・家族・生活者の心身の状態や多様な価値観について想像し、配慮できるようになる。(態度)	12回目・13回目の内容についてノートにまとめ、自分の意見を述べるができるようにしておく。
15	「ホスピタリティ概論」を受講して	「ホスピタリティ概論」での成長を診断するとともに、授業の改善点を検討し、まとめる。	(予) 授業ノートをまとめておく。 (復) 授業の改善点の完成